

令和7年度 横浜市芹が谷地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

高齢化率は横ばいで推移しているものの、介護保険の要支援認定者数は増加傾向にあります。また、複合的な課題を抱える世帯や、身寄りのない高齢者も増えており、従来の介護保険サービスだけでは対応が難しい「制度の狭間」にある方々への支援が課題となっています。地域のつながりや見守りの仕組みを活用し、地域コミュニティへの支援を充実させるとともに、医療機関や福祉施設との連携を強化しながら、地域や行政、関係機関と一体となって支援体制の構築を進めていきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	民生委員定例会や連合/地区社協の定例会等で、地域の課題が複雑な事例を紹介し、情報共有と早期把握の啓発を行う。また、地域に携わるNPO法人とも情報共有の機会を設け関係機関に繋げていく。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	第5期地域福祉保健計画を策定する話し合いの場を設け、住民が主体となって策定ができるよう支援を図っていく。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	災害時、近隣の施設と備品の受け渡しや、移送などを含め、協力しあえる体制作りを行う為、話し合いの場を年1回以上行う。織茂
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	認知症の方とその家族、ケアマネージャー、地域活動関係者等に聞き取りをし、ニーズや傾向を検討し、チームオレンジに繋げる。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	利用者と一緒に考えながら意思決定を支援し、地域の支援機関や福祉サービス、医療機関、法律相談など、必要に応じた支援先へつなぐ。また、本人の状況に応じて、権利や財産が適切に守られるよう、関係機関からの情報を集めて対応する。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

・各会議に継続して出席することで、地域の動向や支援が必要な事例を早期に把握することができました。また、民生委員やNPO法人との連携も進み、関係機関へ円滑につなげる体制をより強化することができました。
 ・永谷地区・芹が谷地区における第5期地域福祉保健計画の策定会議を実施しました。行政、社協、同一管轄のケアプラザと連携し、地域住民の意見集約や構想イメージの可視化など、会議が円滑に進むよう支援を行いました。
 ・近隣の施設であるやまゆり園とはお互いにBCPIに施設名を入れ、災害時協力し合える体制を構築しました。また、防災6拠点連絡会を通じて、他の施設とも課題の共有ができる場となっています。
 ・認知症の方の徘徊に関する相談が増えたため、地域への理解促進と支援情報提供の必要性を感じ、チームオレンジで認知症当事者の方の講演会を開催した。
 ・利用者の意思決定を支援を本人を含めた関係者で行い、必要に応じて各支援機関へつなぐとともに、状況に応じ権利や財産が守られるよう情報収集し対応した。

区からのコメント

学校や福祉施設と地域をつないだり、施設同士をつなぐなど、様々なネットワーク構築に取り組んでいただきました。また、今年度は「第5期港南ひまわりプラン(地区別計画)」の策定において、地域の皆さんとともにご尽力いただき、ありがとうございました。
 認知症支援事業では、徘徊に関する相談増加を受け、地域の理解促進や支援情報提供の必要性にいち早く対応し、チームオレンジで認知症当事者の講演会を開催された点は大変意義深いものです。当事者本人の言葉に触れる機会は、住民の理解や支援の広がりに強く影響するため、こうした企画を実施されたことは地域の支え合いを育む上でも非常に効果的だと感じています。
 また権利擁護業務においては、利用者本人を含めた関係者で意思決定を丁寧な支え、必要に応じて関連機関へつなぐ支援を実践いただいたことに感謝します。来年度も、地域の特性に寄り添った取り組みがさらに発展されることを期待しております。